Seed Cafeの大きな力と価値

―農的社会デザイン研究所代表・蔦谷栄一―

蔦谷　栄一（つたや　えいいち）

東北大学経済学部卒業。1971年農林中央金庫入庫、熊本支店長、農業部副部長を経て、96年7月農林中金総合研究所基礎研究部長。常務取締役、特別理事などを経て、現在、農的社会デザイン研究所代表。

〔主な著書〕
「未来を耕す農的社会」「農的社会をひらく」「地域からの農業再興」「共生と提携のコミュニティ農業へ」（以上創森社）
「日本農業のグランドデザイン」（農山漁村文化協会）など

西東京市の自宅近くに次男夫婦と孫が住んでおり、家内は夕方、保育園帰りの孫の世話を日課としている。次男は9月も半ばを過ぎて遅い夏休みを取り、北海道へ家族旅行に出掛けた。これに伴い家内が"失業"状態となったことから、この機会を活用して静岡県富士宮市に足を運んだ。国の「みどりの食料システム戦略」では、グループを組んでの地域レベルでの有機農業への取り組みが期待されているが、その実情を把握し課題を探ることが狙いだ。

訪問先は岩野雄介さん（47）で、5年前に富士宮で自然栽培による農業を開始し、有機農業仲間もいると聞いていた。筆者は「銀座農業コミュニティ塾」（10年ほど前に「銀座農業政策塾」を発足し、5年ほど前に改組。新型コロナ発生に伴い現在は簡易バージョンの「今夜はご機嫌@銀座で農業」）の代表世話人として、講義を全面的に行ってきた。岩野さんはその塾生・卒業生であるが、そもそもは格闘家でリング上で活躍していた。体や健康に関心を抱くようになって、治療家、スポーツトレーナーもやるようになり、その後、インドでヨガを学んで食に関心を抱くようにもなって、食から農業へとさらに関心が広がってきた。岩野さんが大事にしている言葉の一つが「You Are What You Eat」だ。現在、水田0.7ヘクタール、畑1.3ヘクタールで有機農業を営んでおり、3年前には「富士山麓の自然溢れる環境で育った有機野菜を使用した自然派」のSeed Cafeを立ち上げた。

このSeed Cafeに、岩野さんの考え・姿勢が凝縮されている。木材やしっくいなどの自然素材で作られた空間。すてきな木のテーブルと椅子。すべて廃材を利用しての手作り。しっくいの壁は宇宙世界を表現した素晴らしいアートとなっているが、種を素材にしてのお手製。メニューはビーガンカレーなどの「自然派メニュー」で、材料は地元農家の有機野菜。そしてSeed Cafeの入り口に近い所は、有機農産物や菓子等加工品の売り場となっており、たくさんの固定種・在来種の種も販売している。チラシ、パンフとともに、掲示板にはさまざまな情報が張り付けられている。

岩野さんによると、Seed Cafeの一番の狙いは情報発信にあるという。食べる経験によって感情が動き、感情が動いたところに情報が入り、情報を通じて知ることができる。逆に言えば、本当の情報に触れる機会は少なく、知らないから選ぶこともできないのが、情報化社会といわれる現代社会の実情だ。だからこそ「知る権利と選ぶ自由」が重要であり、ぜひとも次の世代につないでいきたいとする。最近、岩野さんは民泊も始めたが、お金でない価値の交換の場として、場所と食事を提供し、相手は労働を提供する「こととことを交換する場」にしていくことを目指す。金ではなく、人と人のつながりこそが豊かさであり、コミュニティができる。

有機農業に取り組む仲間たちとの懇親。気が付いたら2:00ＡＭだった

訪問した夜はその民泊で、Seed Cafeに関係する皆さんと懇談した。有機農業の技術や販売が重要であることはもちろんであるが、有機に参入する人たちが持つ価値観の表現を可能にする情報発信の場、人とつながる場の存在が極めて大切であり、ベースとして欠かせないことを痛感させられた。